

DLco におけるサンプリング量設定の検討

◎鈴木 遥佳¹⁾、森下 裕子¹⁾
掛川市袋井市病院企業団 中東遠総合医療センター¹⁾

【はじめに】肺拡散能力検査 (DLco) は、洗い出し量 0.75L、サンプリング量 1.0L で実施するのが標準である。しかし、DLco を必要とする患者の中には、肺活量 (VC) <2.0L の者も少なくなく、初期のサンプリング量の設定をどうするか悩むことも多い。今回、過去に VC、努力性肺活量 (FVC)、DLco を施行した症例を後ろ向きに調査し、VC<2.0L における洗い出し量とサンプリング量の初期設定条件の作成を目的に検討を行った。

【対象・方法】2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日までに、当院生理検査室にて VC、FVC、DLco を実施した者のうち、VC<2.0L の症例を対象とし、DLco における最大吸気量 (IVC) が VC の何%であったか (IVC/VC) 求めた。

【結果】対象者は 30 名 (男性 11 名、女性 19 名) (年齢 72.4±8.0 歳)。症例数は 37 例で、内訳は、正常 (%VC≥80.0%、かつ FEV1%≥70.0%) が 10 例、拘束性障害 (%VC<80.0%) が 26 例、混合性障害 (%VC<80.0%、かつ

FEV1%<70.0%) が 1 例。全症例における IVC/VC は 99.5±8.5%だった。IVC/VC が 95%未満の症例は 13 例 (35.1%)、90%未満の症例は 3 例 (8.1%) であった。

【考察・結論】IVC/VC が 90%未満は 3 例であり、理解不足があったと思われる以外に共通する要因はなかった。日常の検査の中で IVC が VC の 90%以上を得られていないことがしばしばあると感じていたが、実際には約 92%が IVC>0.9VC で検査を実施できていた。しかし、IVC>0.95VC に引き上げると、約 65%まで低下した。DLco の最大吸気量は VC の 90%以上で実施すべきとされていることと、本検討の結果から、VC<2.0L の場合の DLco の初期設定は、洗い出し量とサンプリング量の和を VC の 90%とし、VC の値に応じてサンプリング量から減らすこととした。

連絡先：0537-21-5555 (内線：1411)